**千葉市長杯争奪学童野球選手権大会 運営規定**

　本大会の運営は、公認野球規則（2021年度日本野球規則委員会）、競技者必携〔2021年度 (財)全日本軟式野球連盟〕に従う他、以下の運営規定に従う。

１.　本大会に出場できるチームは、「千葉市長杯争奪学童野球選手権　実行委員会」（以下、実行委員会）に登録されたチー

ムであること。

２.　出場チームは、試合開始予定時刻1時間前迄に試合場に到着し、大会役員に届け出ること。

３.　出場チームが、試合開始予定時刻迄に到着しない時は、原則として棄権とみなす（球場担当役員と審判員で決定する）。

４.　出場チームは、支給される千葉市少年軟式野球協会の様式メンバー表に、氏名をフルネームで、かつ、振り仮名を附して記入し、４部を大会本部へ提出する。

５.　試合中ベンチに入れる人数は、チーム選手20名、指導者として代表者、監督、コーチ２名、マネージャー１名、介護員２名の７名以内とする。

６.　試合の時間は、１時間30分とする（シートノックは含まない）。

７.　試合は、時間内７回戦とする。終了時同点の場合特別延長戦を行う。

８.　特別延長戦は、１死満塁からのサドンデス方式による。前項７でも勝敗の決まらない時は、最終回時のメンバー各９名の選手により○×抽選により勝敗を決す。

９.　点差によるコールドゲームは、３回以降10点差、5回以降７点差とする。天候（降雨、日没等の場合）による場合は、４回終了をもって試合成立とする。 決勝戦は、点差によるコールドゲームは適用しない。

10. 塁間は、23メートル、本塁から投手板迄の距離は16メートル（公認野球規則）とする。ベースは、移動ベースを使用する。

11. シートノックは、１チーム５分以内とし、捕手はマスク（スロートガード付）、レガース、プロテクター、ファールカップ、ヘルメットを着用する（控え捕手も着用する）。　ノッカーに対する背後からのボールの手渡しは、危険防止の為、禁止する。

12. ベンチは、抽選番号の若い方を１塁側とする。　攻撃順は、メンバー表提出時に決める。

13.　背番号については、監督30番、コーチは29番、28番，主将は10番とする。但し、代表者、マネージャー、介護員はユニホームを着用しなくても良いが、チームと同一の帽子を着用する。

14.　試合中抗議のできる者は、監督と当該選手とする。

15.　準備投球は、１回目と交代時は７球以内、２回目以降は４球以内とする。但し、諸事情によっては、実行委員会の判断により変更

できるものとする。

16.　ファールボールは、１塁方向は１塁側ベンチ、３塁方向は３塁側ベンチが処理する。

ボールボーイは、ヘルメットを着用すること。

17.　試合場の広さ、障害物その他の状況を考慮し、その試合の特別ルールを作ることができる。

18.　各チームの応援団、ベンチは、相手チームの気分を害さないよう、少年野球に相応しい応援で臨むこと。

19.　応援については、チーム監督が責任を持つ。特に、選手、審判等に対する野次、その他品位を欠く言動は厳に慎むこと。

20.　大会において、不正を行ったチームへの処置。

　　①　不正を行ったチームは、失格とする。

　　②　試合中及び試合終了後に発見された場合は、相手方に勝利を与える。

　　③　決勝戦の場合、準優勝チームを優勝とし、準優勝は実行委員会預かりとする。

21.　使用球は、全日本軟式野球連盟公認球「J号球」とし、金属バットは「ＪＳＢＢ」マーク入りの公認のものを使用すること。

22.　ヘルメットは「ＪＳＢＢ」マーク入りで、両側にイヤーラップの付いたものを最低８個用意し、打者、次打者、走者、ランナーズコーチャー及びボールボーイが着用すること。

23.　捕手（控え捕手も含む）は、マスク（スロートガード付）、レガース、プロテクター、ファールカップ、ヘルメットを使用すること。

　　　投球練習時も同様とする。

24.　選手の手袋使用は守備、打撃、走塁共に認める。但し、投手守備時の手袋使用は不可とする。

25.　審判は、千葉市少年軟式野球協会所属他の審判員が行う。

26.　試合を行うチームは、救急箱を必携すること。また、ゴミ袋等を用意し、使用球場の美化に努め、グランドの整備も行う。

27.　作戦タイムは、攻撃時３回、守備時３回とする。なお、守備時に３人以上集まれば１回とみなす。

　　　特別延長戦は、攻撃、守備時にそれぞれ１回ずつとする。

28.　第２試合以降のチームは、前の試合４回終了後に、先発投手のグランド内での投球練習ができるものとする。

30　コロナ禍の大会であり球場入りする監督以下選手の体温測定を実施する。

31、30項については千葉市少年軟式協会役員が実施し、記録を残す